

1 公衆衛生情報の解析提供

疫学情報部門

1) 京都市感染症情報センター業務

(1) 概要

本市における感染症発生動向調査事業は、昭和57年4月から24感染症を対象に開始され、コンピュータ・オンラインシステムの導入(昭和62年4月)、対象感染症の増加(順次40感染症まで)、京都市週報の発行など、その充実を図りながら、感染症の発生状況の把握と関係医療機関及び行政機関への情報提供を行い感染症の拡大防止に備えてきた。

平成11年4月には、感染症の発生を予防し、及びそのまん延の防止を図り、もって公衆衛生の向上及び増進を図ることを目的として「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(以下「感染症法」という。)が施行された。これに伴い、感染症情報(患者情報と検査情報)を全国規模で迅速に収集・分析・提供・公開するためのコンピュータ・オンラインシステムの再構築、積極的な疫学調査(感染症の発生の状況、動向及び原因の調査)の実施など、その体制の充実・強化が図られた。本市においても、地方感染症情報センター機能を担う「京都市感染症情報センター(感染症部門)」を衛生公害研究所に設置し、コンピュータ・オンラインシステムを新たに再構築した。

また、「感染症法」が平成15年11月に改正され、報告の対象とされている感染症が一類から五類に再分類され、全数把握対象感染症58と定点把握対象感染症28の計86感染症(表1-1)となった。全数把握対象感染症は診断した医師から、また定点把握対象感染症は患者定点(表1-2)に指定された市内の133医療機関から保健所を通じ国に報告されることになっている。また、病原体定点としては3医療機関が指定されている。

(2) 患者情報・検査情報の収集及び解析

感染症発生動向調査事業実施体制とコンピュータ・オンラインシステム

感染症発生動向調査事業実施体制の概要を図1-1に示す。

市内の医療機関から報告された患者情報は各保健所から、また病原体検査(当所微生物部門及び臨床部門が担当)の情報は衛生公害研究所から、それぞれオンラインシステムにより、中央感染症情報センター(国)に送信されている。

コンピュータ・オンラインシステムのうち、厚生労働行

政総合情報システム(WISH)は、国の感染症情報センターと本市の感染症情報センター(衛生公害研究所)・地域医療課・保健所を接続しており、京都市情報の送信と全国情報の受信に使用している。また、外付けオンラインシステムは、衛生公害研究所と地域医療課を接続しており、相互の情報交換に使用している。

機器構成と通信内容等を表1-3に示す。

データの収集

受信した感染症情報のうち、患者情報は感染症発生動向調査システム(Ver3.B0)のデータベースに、検査情報は感染症検査情報オンラインシステム(Ver4.72)のデータベースに取り込み、その他の関連情報は接続コンピュータのハードディスクに保存している。

データの集計・解析

表1-4に示すように、データベースから取り出した患者情報データを、Excel VBAマクロにより作成した集計プログラムを使用して集計し、行政区別感染症別報告数・定点当たり報告数などの基本集計表を作成している。

a. 週報、月報及び行政区別感染症情報

定型部分は、基本集計表のデータを使用して更新している。コメント文、トピックスなど定型外の部分はその都度作成している。

b. ホームページ上の感染症発生動向調査情報

基本集計表のデータから年推移のグラフ等を作成、HTMLファイルに変換し、衛生公害研究所のホームページに掲載している。

c. 事業実施報告書

基本集計表から年間の集計データを作成し、過去8年と比較した図表等を作成している。コメント文など定型外の部分は別途作成している。更に、報告書の事業編をPDFファイルに変換し、衛生公害研究所のホームページに掲載している。

(3) 提供情報の内容と提供先

週報

A4版6ページで構成し、毎週発行しており、1ページ目には全数報告感染症の概要、上位定点報告感染症の報告数、検出された病原体の概要、コメント、2ページ目にはインフルエンザまたは腸管出血性大腸菌感染症及び上位定点報告感染症の発生状況、3ページ目には最近流行している感染症のトピックス、4ページ目には行政区・感染症別

表 1 - 1 京都市結核・感染症発生動向調査事業の対象感染症

1 全数把握の一類、二類、三類感染症

感染症の種類	疾病名	対象となる者の状態
一類感染症	(1) エボラ出血熱	患者 疑似症患者 無症状病原体保有者
	(2) クリミア・コンゴ出血熱	
	(3) 重症急性呼吸器症候群 (病原体が SARS コロナウイルスであるものに限る)	
	(4) 痘そう	
	(5) ペスト	
	(6) マールブルグ病	
	(7) ラッサ熱	
二類感染症	(8) コレラ	患者 無症状病原体保有者
	(9) 細菌性赤痢	
	(10) 腸チフス	
	(11) パラチフス	
	(12) 急性灰白髄炎	
(13) ジフテリア		
三類感染症	(14) 腸管出血性大腸菌感染症	

2 全数把握の四類感染症

(15) E 型肝炎	(30) デング熱
(16) ウィストニル熱 (ウィストニル脳炎を含む)	(31) ニバウイルス感染症
(17) A 型肝炎	(32) 日本紅斑熱
(18) エキノコックス症	(33) 日本脳炎
(19) 黄熱	(34) ハンタウイルス肺症候群
(20) オウム病	(35) Bウイルス病
(21) 回帰熱	(36) ブルセラ症
(22) Q 熱	(37) 発しんチフス
(23) 狂犬病	(38) ボツリヌス症
(24) 高病原性鳥インフルエンザ	(39) マラリア
(25) コクシジオイデス症	(40) 野兔病
(26) サル痘	(41) ライム病
(27) 腎症候性出血熱	(42) リッサウイルス感染症
(28) 炭疽	(43) レジオネラ症
(29) つつが虫病	(44) レプトスピラ症

3 全数把握の五類感染症

(45) アメーバ赤痢	(52) ジアルジア症
(46) ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く)	(53) 髄膜炎菌性髄膜炎
(47) 急性脳炎 (ウィストニル脳炎及び日本脳炎を除く)	(54) 先天性風しん症候群
(48) クリプトスポリジウム症	(55) 梅毒
(49) クロイツフェルト・ヤコブ病	(56) 破傷風
(50) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	(57) パンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症
(51) 後天性免疫不全症候群	(58) パンコマイシン耐性腸球菌感染症

全数把握とは、すべての医療機関が届出の対象である。

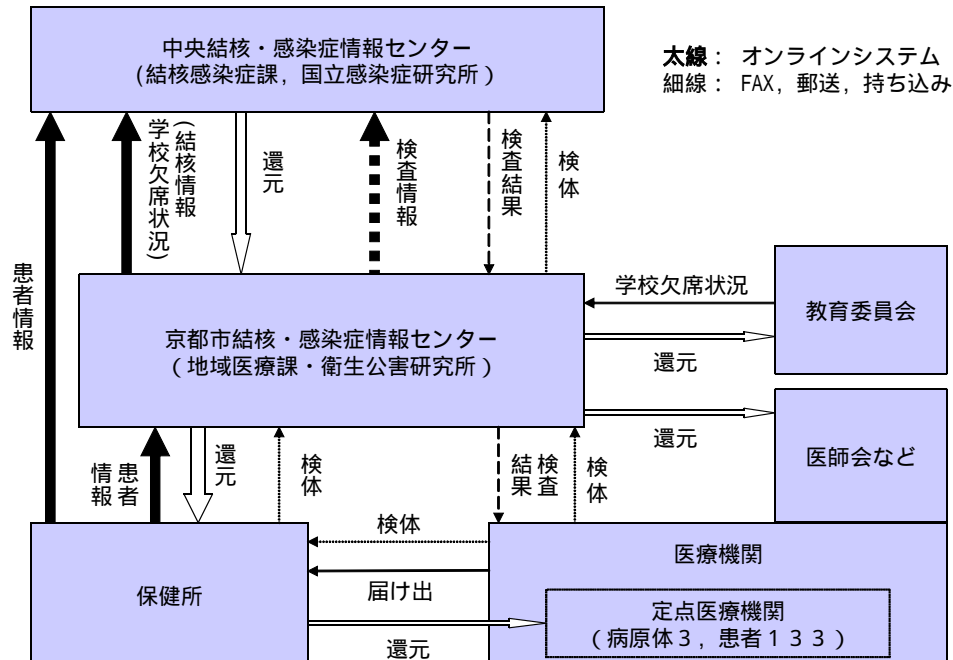
4 定点把握の五類感染症

(59) R S ウイルス感染症	(73) 急性出血性結膜炎
(60) 咽頭結膜熱	(74) 流行性角結膜炎
(61) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	(75) 性器クラミジア感染症
(62) 感染性胃腸炎	(76) 性器ヘルペスウイルス感染症
(63) 水痘	(77) 尖圭コンジローマ
(64) 手足口病	(78) 淋菌感染症
(65) 伝染性紅斑	(79) クラミジア肺炎 (オウム病を除く)
(66) 突発性発しん	(80) 細菌性髄膜炎
(67) 百日咳	(81) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
(68) 風しん	(82) マイコプラズマ肺炎
(69) ヘルパンギーナ	(83) 成人麻しん
(70) 麻しん (成人麻しんを除く)	(84) 無菌性髄膜炎
(71) 流行性耳下腺炎	(85) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
(72) インフルエンザ (高病原性鳥インフルエンザを除く)	(86) 薬剤耐性緑膿菌感染症

定点把握とは、指定届出機関が届出の対象である。

表 1 - 2 京都市結核・感染症発生動向調査事業の行政区別定点数

行政区 \ 定点	インフルエンザ	小児科	眼科	性感染症	基幹
北	7	4	1	1	-
上京	5	3	1	1	-
左京	7	4	1	1	-
中京	5	3	2	2	1
東山	3	2	-	1	-
山科	7	4	1	1	-
下京	3	2	-	1	-
南	5	3	-	1	-
右京	8	5	1	1	-
伏見	11	7	2	2	-
西京	7	4	1	1	-
合計	68	41	10	13	1



還元 国の「感染症週報/月報」及び全国の患者情報のデータ, 検査情報のデータ
 還元 「京都市週報/月報」と「行政区別感染症情報」及び国の「感染症週報/月報」
 還元 「京都市週報/月報」及び国の「感染症週報/月報」

図 1 - 1 京都市結核・感染症発生動向調査事業実施体制

表 1 - 3 コンピュータオンラインシステムと通信内容

オンラインシステムと通信先	接続コンピュータ	通信回線	通信ソフト及び通信内容
厚生労働行政総合情報システム(WISH) (国立感染症研究所感染症情報センター)	PC-MY28YGDDET5BD (NEC製) (OS:Windows 2000)	ISDN (ターミナルアダプタ:Aterm IT42)	Internet Explorer Ver 6.0 全国患者情報の受信
	MATE NX MA10T (NEC製) (OS:Windows 98)	アナログ (モデム: Fax Modem 56K Data+Fax(DJP))	Internet Explorer Ver 6.0 全国検査情報の受信 FTP通信(まいと~<95) 京都市検査情報の送信
外付けオンラインシステム (京都市地域医療課)	PC-MY28YGDDET5BD (NEC製) (OS:Windows 2000)	ISDN (ターミナルアダプタ:Aterm IT42)	FFFTP Ver 1.92 京都市患者情報の受信 「京都市週報」等の送信

表 1 - 4 患者情報データの基本集計表一覧

京都市週報データ	元データ	京都市週単位定点報告感染症の定点別年齢階級別データ(CSV形式)
	集計表	T3201表(行政区別感染症別報告数・定点当たり報告数), T3202表(年齢階級別感染症別報告数・定点当たり報告数), T3203表(週別感染症別報告数・定点当たり報告数(6週分))
全国週報データ	元データ	全国及び京都府の全数及び週単位定点報告感染症の集計結果(CSV形式)
	集計表	T3101表(都道府県別全数報告感染症別報告数), T3102表(都道府県別定点報告感染症別報告数・定点当たり報告数), 他14表 T3109表(京都府保健所別全数報告感染症別報告数), T3110表(京都府保健所別定点報告感染症別報告数・定点当たり報告数)
京都市月報データ	元データ	京都市月単位定点報告感染症の定点別年齢階級別データ(CSV形式)
	集計表	T3205表(行政区別感染症別報告数・定点当たり報告数), T3206表(年齢階級別感染症別報告数・定点当たり報告数), T3207表(昨年及び今年の月別感染症別報告数・定点当たり報告数)
全国月報データ	元データ	全国の月単位定点報告感染症の集計結果(CSV形式)
	集計表	T3121表(都道府県別感染症別報告数・定点当たり報告数), T3122表(年齢階級別感染症別報告数・定点当たり報告数), 他6表

(報告数・定点当たり報告数), 5 ページ目には年齢階級・感染症別(報告数・定点当たり報告数), 6 ページ目には今週及び過去 5 週分の感染症別(報告数・定点当たり報告数)を掲載している。1 ページ及び 2 ページの抜粋の一例を図 1 - 2 に示す(次ページ)。

また, 月末の週の週報には, まとめとして該当月に報告のあった全数報告感染症及び検出された病原体の概要, 全数報告感染症の発生状況一覧及び検出された病原体詳細情報一覧の 3 ページを加えている。

月報

A 4 版 3 ページで構成し, 月 1 回発行しており, 性感染症 4 疾患と薬剤耐性菌感染症 3 疾患の発生状況とコメント, 行政区・感染症別(報告数・定点当たり報告数), 年齢階級・感染症別(報告数・定点当たり報告数)を掲載している。

「週報」及び「月報」は地域医療課を通じて, 関係医療機関及び行政機関へ提供している。

行政区別感染症情報

A 4 版 1 ページで構成し, 月 1 回発行しており, 定点報告感染症発生状況と定点医療機関からの報告数について, 地域の特徴が分かるように一覧表にし, 地域医療課を通じ

て各保健所に提供している。

ホームページの感染症発生動向調査情報

全数把握感染症の月別発生状況, 週毎の定点報告感染症発生状況(年齢別発生数, 週別推移, 上位感染症の発生数, インフルエンザウイルス検出情報), 腸管出血性大腸菌感染症発生状況(月別発生者数, 菌型別発生者数, 年齢別発生者数)などを当研究所のホームページ(<http://www.city.kyoto.jp/hokenfukushi/eikouken/>)に掲載し, 医療関係者及び市民に提供している。一部を図 1 - 3 に示す。

事業実施報告書

毎年, 地域医療課及び当所微生物部門と協働で作成している報告書は, 実施要綱, 実施要領, 定点医療機関名簿等の組織編, 感染症の発生状況を患者情報と検査情報について解析した事業編及び資料編の 3 部で構成されており, 定点医療機関, 京都府医師会及び関係行政機関等に配布している。更に, 事業編及び資料編については, ホームページ上にも掲載している。

(4) 発生状況の概要

平成17年の感染症発生状況については, 表 1 - 5, 1 - 6, 1 - 7のとおりである。



図 1 - 3 ホームページの感染症発生動向調査情報の例

感染症発生動向調査 京都市週報

感染症情報は京都市衛生公害研究所ホームページ
(<http://www.city.kyoto.jp/hokenfukushi/eikouken/index.html>)にも掲載しています。

全国の感染症発生動向調査週報・月報PDF版は国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ
(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)に掲載されており、Adobe Acrobat Reader 日本語版
(<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep.html>)から無料でダウンロードすることにより見ることができます。

平成18年第12週 平成18年3月20日～平成18年3月26日

(インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

今週のトピックス: <麻しん・風しん>

全数報告の感染症

四類感染症: A型肝炎 1例

性・年齢: 男49歳, 症状: 発熱, 全身倦怠感, 嘔吐, 下痢, 食欲不振
推定感染地域: 国内, 推定感染経路: 不明

定点報告の主な感染症

感染症	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ定点の感染症		
インフルエンザ	0.78	53
小児科定点の感染症		
感染性胃腸炎	5.10	209
流行性耳下腺炎	1.20	49
水痘	1.00	41
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.93	38
伝染性紅斑	0.37	15
突発性麻疹	0.37	15
眼科定点の感染症		
流行性角結膜炎	0.40	4

病原体情報(第12週判明分)

臨床診断名(採取週)	検出病原体	報告数
感染性胃腸炎(第9週)	A群ロタウイルス	3
下気道炎(第11週)	RSウイルス	1
下気道炎(第11週)	インフルエンザウイルスAH1型	1
感染性胃腸炎(第11週)	ノロウイルスG	1

今週のコメント

インフルエンザの定点当たり報告数は0.78で、第4週をピークに減少が続いており、流行はほぼ終息しました。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は1.20で、第1週以降過去5年平均値を上回っています。年齢階級別にみると、4歳(24.5%)が最も多くなっています。風しんの報告は1例で、第1週からの累積報告数は5例となっています。麻しんは0例で、累積報告数は2例となっています。麻しん風しん混合ワクチンの定期接種は平成18年4月から開始されます。詳細はトピックスに掲載しています。(注:京都市のデータは日:平成18年4月3日現在報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。)

主な感染症(小児科・眼科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

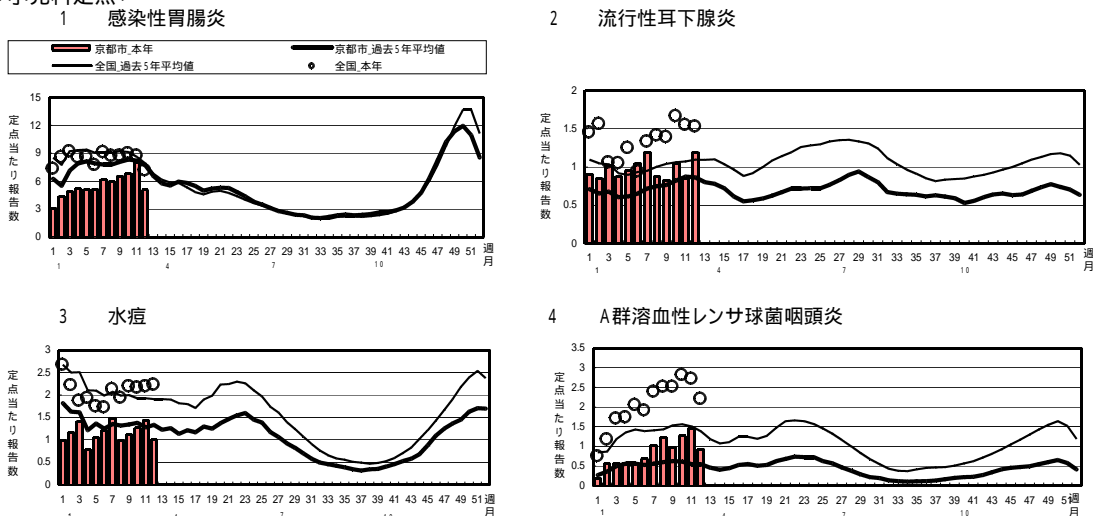


図1-2 「週報」1ページ目と2ページ目の抜粋

表 1 - 5 全数把握感染症の月別報告数（平成17年 1月～12月）

全数把握対象感染症		合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
二類	細菌性赤痢	12	1	1	2	4	-	3	-	-	1	-	-	-
	ソルネ	8	1	1	1	3		1			1			
	不明	4			1	1		2						
	腸チフス	1			1									
	パラチフス	1					1							
三類	腸管出血性大腸菌感染症	36	1	1	1	1	3	4	3	4	10	4	2	2
	O 26	5					1	4						
	O 91	1												1
	O 157	30	1	1	1	1	2		3	4	10	4	2	1
四類	A型肝炎	3	1										1	1
	デング熱	2	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-
	デング熱	2						1			1			
	レジオネラ症	2		1						1				
五類	アメーバ赤痢	17	1	1	3	1	1	2	1	1	1	1	1	3
	ウイルス性肝炎	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
	B 型	1							1					
	急性脳炎	1					1							
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1									1			
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1			1									
	後天性免疫不全症候群	9	-	-	2	1	-	1	1	-	-	2	1	1
	無症候性キャリア	4				1			1			1	1	
	AIDS	3			1			1						1
	その他	2			1							1		
	梅毒	7	-	2	-	-	-	-	1	1	-	-	2	1
	早期顕症梅毒	2											1	1
	晩期顕症梅毒	3		1						1			1	
無症候梅毒	2		1					1						
破傷風	1								1					
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2				1				1					
五類感染症 合計	40	1	3	6	3	2	3	4	4	2	3	4	5	

表 1 - 6 定点把握五類感染症の月別報告数（平成17年 1月～12月）

感染症名 月	インフルエンザ定点	小児科定点												
	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん（成人麻しんを除く）	流行性耳下腺炎
定点数	68	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41
1月	713	1	12	106	1,693	289	24	14	108	-	-	7	-	139
2月	7,990	-	6	92	1,011	253	17	16	70	1	1	4	-	133
3月	4,067	-	2	64	893	258	14	9	56	1	-	4	-	153
4月	617	-	11	73	1,066	230	15	9	81	-	1	12	-	143
5月	58	-	4	135	1,353	378	42	26	108	3	1	33	2	163
6月	5	-	19	137	685	269	65	53	97	2	2	276	3	132
7月	-	-	19	54	408	94	103	40	93	1	1	606	-	198
8月	-	1	27	25	391	54	67	30	75	1	3	247	1	178
9月	-	3	27	21	401	50	45	16	89	2	3	92	2	172
10月	9	6	4	74	627	81	31	20	106	1	1	23	-	169
11月	85	20	3	82	1,931	143	8	17	56	3	1	10	-	173
12月	1,531	22	3	98	2,399	223	7	23	52	2	-	5	-	179
合計	15,075	53	137	961	12,858	2,322	438	273	991	17	14	1,319	8	1,932

感染症名 月	眼科定点		性感染症定点				基幹定点							
	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	性器クラミジア感染症	性器ヘルペスウイルス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	成人麻しん	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	薬剤耐性緑膿菌感染症
定点数	10	10	13	13	13	13	1	1	1	1	1	1	1	1
1月	1	18	25	16	3	3	-	-	1	-	-	-	-	-
2月	1	20	13	14	2	5	-	-	-	-	-	-	-	-
3月	-	6	13	12	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
4月	-	21	16	13	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-
5月	1	25	21	16	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-
6月	-	9	19	7	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-
7月	-	32	26	11	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-
8月	-	67	21	15	2	6	-	-	-	-	-	-	-	-
9月	-	42	13	11	2	4	-	-	-	-	-	-	-	-
10月	-	24	15	17	3	2	-	-	-	-	-	-	-	-
11月	-	2	22	8	3	2	-	-	-	-	-	-	-	-
12月	-	12	11	9	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	3	278	215	149	20	41	-	-	2	-	-	-	-	-

表1-7 平成17年 行政区別 定点当たり報告数(定点把握対象五類感染症)

感染症名 行政区	インフルエンザ定点		小児科定点											
	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん(成人麻しんを除く)	流行性耳下腺炎
北	183.71	1.50	1.50	11.50	198.25	23.25	7.00	6.00	9.00	-	0.50	15.75	-	26.75
上京	149.20	0.33	1.67	16.33	156.00	36.33	9.33	4.00	17.33	0.33	-	14.00	0.33	27.00
左京	119.00	0.75	1.00	15.75	208.00	36.50	4.00	4.00	19.25	-	0.25	32.25	0.50	43.25
中京	224.00	1.00	3.33	20.67	530.00	106.33	15.67	8.67	27.00	1.00	0.33	64.67	1.00	77.67
東山	464.33	16.50	2.00	2.50	701.00	72.00	16.00	0.50	19.00	1.50	1.50	26.50	-	10.00
山科	237.86	1.00	2.50	7.00	172.50	45.00	7.75	3.00	25.50	1.50	0.25	31.00	0.25	70.25
下京	244.67	-	0.50	-	48.50	52.00	9.00	5.50	11.50	-	-	4.50	-	50.00
南	454.60	-	8.33	74.67	635.67	118.33	25.33	21.00	40.00	0.33	-	131.33	-	60.67
右京	122.63	0.40	7.80	4.00	224.80	33.40	8.00	7.00	21.40	-	0.40	10.20	0.20	15.40
伏見	84.45	-	0.43	18.71	157.14	26.71	8.29	5.71	21.29	0.43	0.43	14.00	-	44.43
西京	445.00	0.25	7.50	83.25	713.75	129.50	16.00	8.25	51.50	-	0.25	40.50	-	91.75
全体	221.69	1.29	3.34	23.44	313.61	56.63	10.68	6.66	24.17	0.41	0.34	32.17	0.20	47.12

感染症名 行政区	眼科定点		性感染症定点				基幹定点							
	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	性器クラミジア感染症	性器ヘルペスウイルス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	成人麻しん	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	薬剤耐性緑膿菌感染症
北	-	6.00	5.00	8.00	-	-								
上京	-	-	4.00	4.00	6.00	7.00								
左京	-	13.00	11.00	4.00	1.00	3.00								
中京	-	14.00	5.00	1.50	-	-	-	-	2.00	-	-	-	-	-
東山			80.00	38.00	-	26.00								
山科	-	115.00	34.00	2.00	1.00	2.00								
下京			20.00	26.00	1.00	2.00								
南			21.00	26.00	4.00	-								
右京	1.00	78.00	1.00	9.00	-	-								
伏見	1.00	15.00	11.00	13.00	1.50	-								
西京	-	8.00	7.00	3.00	4.00	1.00								
全体	0.30	27.80	16.54	11.46	1.54	3.15	-	-	2.00	-	-	-	-	-

2) その他の公衆衛生に係るデータの解析

国民生活基礎調査(京都市分データ)の解析

目的

国民生活基礎調査は、国民の保健、医療、福祉、所得など国民生活の基礎的事項を調査し、厚生行政の企画及び運営に必要な基礎資料を得ることを目的として、国により実施されているものであり、昭和61年を初年として3年ごとに大規模な調査が、中間の各年は追加調査が実施されている。

大規模調査の結果については、京都市保健福祉局保健福祉総務課を通じて、国から「世帯編」及び「健康編」の京都市分データの還元を受け、京都市民の健康状態などについて解析を行った。

調査対象

国民生活基礎調査は、全国の世帯及び世帯員を対象とし、世帯票及び健康票については、国勢調査区から層化無作為抽出した世帯及び世帯員を客体としている。

調査項目

a. 世帯票

世帯主との続柄、性、出生年月、配偶者の有無、医療保険加入状況、就業の状況、公的年金の加入状況、乳幼児の日中における保育、住居の状況、平成16年5月中の家計支出額の状況 など

b. 健康票

入院・入所の状況、自覚症状、通院・通所の状況、日常生活への影響、悩みやストレスの状況、健康診断等の受診状況、健康の維持・増進のために日頃から実行している事柄 など

調査方法

世帯票については、調査員が世帯を訪問し、面接聞き取りの上、調査票に記入する方法により行われた。健康票については、あらかじめ調査員が配布した調査票に世帯員自らが記入し、後日、調査員が回収する方法により行われた。

集計方法

入手した京都市分データ(MO 1枚 固定長フィールド形式テキストファイル)をMicrosoft Accessに取り込み集計を行った。計算及び作表には、Microsoft Excelを使用した。

集計及び取りまとめ

世帯では、世帯・世帯員、住居・家計支出、公的年金・恩給等について、健康では、世帯員の健康状況(有訴者の状況、通院者の状況、日常生活への影響、健康状態、健康意識、悩みやストレスの状況、健康診断等の受診状況)等について、速報値レベルの取りまとめを行い、平成18年3月に報告書「平成16年 国民生活基礎調査 京都市の概況(速報)」を作成した。

2 インターネットホームページによる情報提供

疫学情報部門

1) 目的

試験検査，調査研究，監視指導活動，感染症発生動向調査など，衛生公害研究所の事業内容並びに関連する公衆衛生情報を広く公開する目的で，平成9年10月から，衛生公害研究所のホームページを開設している。

平成17年度は，本庁課からの依頼により掲載していたコンテンツについて整理を行うこととし，「生活習慣病予防指針」については平成17年6月に保健衛生推進室健康増進課に，「京都市結核情報」「京都市エイズ情報」「O157の感染予防」については平成18年3月に保健衛生推進室地域医療課に委ねた。

また，当所のホームページのあり方を検討する小委員会を立ち上げ，ホームページの全面的な見直しを行い，平成18年3月17日に改訂版への切り替えを行った。

2) 内容

- (1) トピックス
- (2) 仕事内容の紹介
- (3) 腸管出血性大腸菌O157の検出方法
- (4) 感染症発生動向調査（市内分）
- (5) 腸管出血性大腸菌感染症発生状況（市内分）
- (6) 花粉情報
- (7) 消費者コーナーニュース
- (8) 京都市衛生公害研究所年報
- (9) 京都市感染症発生動向調査事業実施報告書
- (10) 生活習慣病予防指針（保健福祉局健康増進課からの依頼により作成，掲載）
- (11) 京都市結核情報（保健福祉局地域医療課からの依頼により作成，掲載）
- (12) 京都市エイズ情報（保健福祉局地域医療課からの依頼により作成，掲載）
- (13) O157の感染予防（保健福祉局生活衛生課からの依頼により作成，掲載）
- (14) キーワード検索「ものみやぐら」（京都市ホームページにリンク）
- (15) ご意見・ご感想（電子メールの受付）
- (16) リンク集（地方衛生研究所など関連機関のホームページへのリンク）

3) ホームページ閲覧回数

当研究所のホームページに対する平成17年度のアクセス総数は表2のとおりである。

表2 ホームページへの閲覧回数（年間総数）

コンテンツ	平成17年度
	閲覧回数
総数	282,213
京都市衛生公害研究所年報	95,075
生活習慣病（成人病）予防指針	40,479
消費者コーナーニュース	28,921
花粉情報	17,109
京都市エイズ情報	16,183
感染症発生動向調査（京都市）	15,449
仕事内容紹介	12,309
京都市感染症発生動向調査事業実施報告書	5,738
京都市結核情報	3,451
腸管出血性大腸菌感染症発生状況（京都市内）	2,614
トピックス	1,986
リンク集	1,789
O157の感染予防	1,686
腸管出血性大腸菌O157検出方法	1,509
ご意見・ご感想	1,008
Contents詳細	534
その他	36,373

3 京都市環境情報処理システムの運用

環境部門

1) 目的

「京都市環境情報処理システム」は、大気汚染常時監視テレメータシステムで得られた測定結果をコンピュータによって収集、蓄積及び処理を行い、大気汚染を把握するのに必要な情報を適時に提供することによって環境行政の遂行を支援することを目的としている。

2) 方法

本システムは図3-1に示すとおり、大気汚染常時監視テレメータシステムから測定結果を収集するモニタリングシステム並びに収集したデータを蓄積、処理及び加工する情報処理システムの二系列からなる。

モニタリングシステムのハードウェアの構成は図8-1

(第2部, P.43)に、情報処理システムの構成については図3-2に示すとおりである。

3) 結果

平成17年度には、以下のとおり処理を行った。

測定結果については、大気汚染常時監視テレメータシステムで収集した1時間値を入力し、蓄積、整備した。

上記のデータを下記の資料などの作成に使用した。

- a. 外部へ提供のための資料(表3)
- b. 大気汚染状況の広報、「京都市の環境」、市会資料及び環境省への報告のための基本資料
- c. 大気測定結果のデータブック

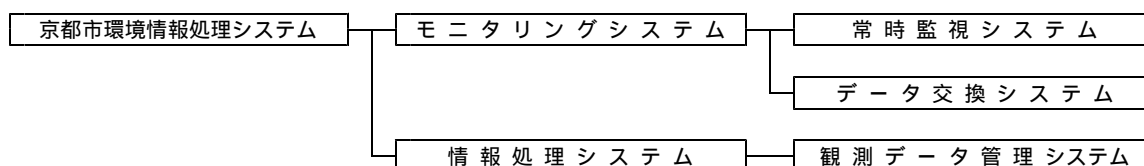


図3-1 環境情報処理システム

表3 資料提供件数

				平成17年度
環境局	環境局以外(市)	国及び府	その他	計
18	1	6	20	45

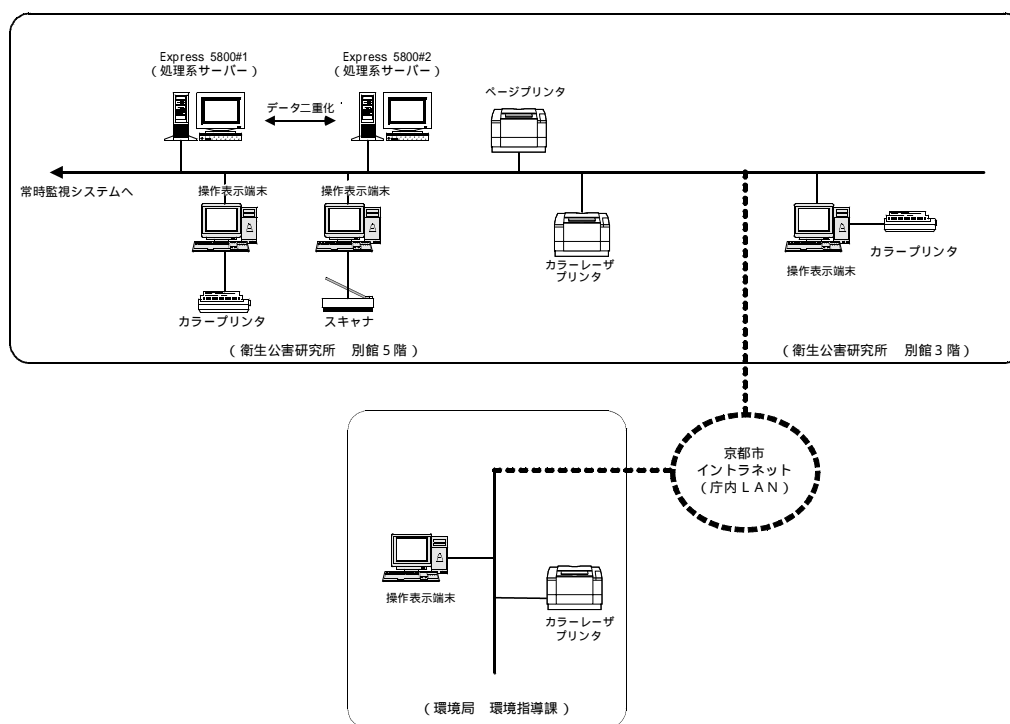


図3-2 情報処理システムの機器構成(平成17年度)

4 その他の公衆衛生情報の収集提供

管理課

単行本，刊行物（学術雑誌を含む），各種報告書などを収集・收受し，分類整理して図書室に配架・保管するとともに，所内 LAN を活用し，購入雑誌の目次・新着図書等を掲載している。

平成17年度の主な購入雑誌は，次のとおりである。

1) 邦文雑誌

医学のあゆみ
ジャパンフードサイエンス
厚生指標
日本医事新報
日本公衆衛生雑誌
食品衛生研究
蛋白質 核酸 酵素
臨床検査
公衆衛生
食と健康
消費者
暮らしの手帖
資源環境対策
環境技術
水環境学会誌
環境と公害
環境管理
騒音制御
日本音響学会誌

2) 欧文雑誌

Association of Official Analytical Chemists Journal
Journal of Chromatographic Science